

須田寛 氏のご講演を聞いて  
佐藤守正

須田先生は、以前は愛知政治大学院で産業観光について講演をなされたとのこと。今回は安倍総理が打ち出した『美しい国、日本』による地域が輝く「美しい国、日本」の観光立国戦略について講演された。

愛知県の現状を見ると、製造業は出来上がった製品を全国各地や外国まで輸送する際に、運送・保険・金融・コンピューターシステム等、ありとあらゆる産業との繋がりが出来、多くの雇用を生み出している。このことから、製造業と観光を比べたとき、観光より製造業が上とみなされている。『観光』とは、中国の故事では「国の光（優れたもの）を観る」とあり、「心を込めて見せる」という崇高な言葉の意味がある。観光客の側からすると、その土地へ行ってみたいと思える魅力のある所という意味でもあるが、先ほど触れたように愛知県は製造業が発達している街であるため、少々この言葉が軽んじられているようにも思える。

しかし、ようやく政府が観光の重要さに気づき、訪日外国人の数値目標を1000万人と出した。その数値目標を分析してみると、現在は円高が緩和され、韓国ウォンも高くなり、韓国からの観光客は増加している。例えば、愛知県での現状を蒲郡のホテルの従業員の方や岐阜のゴルフ場の人に尋ねると、観光客数が増えていると実感されていることが分かる。愛知県・三重県・静岡県・岐阜県において2005年に約91万人だった外国人観光客を2010年までに136万人に増やそうと計画が進み、外国の旅行斡旋業者の協力により、少しずつ外国人の観光客が増えている。訪日外国人1000万人の数値目標は達成可能であろうと思われる。

しかし、空港や港の整備を見ると、世界が日本を中継港としようとした時、まだ整備が充分と言えないのが現状である。中部国際空港は一本の滑走路しかなく、世界から利用されるためには更にもう一本の滑走路整備を急がなければならない。港にしても、香港やタイなどに比べ整備が遅れている。

全国の観光客の年齢等の構成を旅行業者に尋ねてみると、中高年層が多く、新しい観光客の募り方として、大きな家電業界などが購買者に抽選をして当選者にバスツアーなどを斡旋している。また、観光客の意識調査によれば、団体旅行より少人数の旅行者が増え、旅行者のニーズもここ数年で変わってきている。観光の目的意識も時間とともに変わるので、その点も観光のあり方を考えていく上で必要なことだと思う。

さらに、観光地の新しい課題として、日本全国の建物や遺跡をどのように旅行者にアピールしていったら良いのかが挙げられる。旅行業者や旅館業者・バ

ス会社が真剣に考える時に来ている。観光立国を考えていく上で大事な部分だと思う。観光地は、何を提供していくべきか。例えば、必ず、その土地の観光検定に合格した人が案内し、専門的な建築の説明をすとか、ホテルや旅館の食事は、その地の名物の料理を加えることなどが考えられることと思う。

最後に、観光を活性化するには、その自治体の長のアピールが大切である。その点がいかに重要であるかということは、東国原宮崎県知事の言動により宮崎県への観光客が増加していることから分かる。愛知県は多くの観光客を受け入れるためのホテルや市内の交通機関の問題等はクリアしているものの、次のような施策がまだ遅れているのではないだろうか。例えば、外国から県内に入って来た時、まず、道路標識やバス・電車などの細かな外国語の案内標識が少ない。また、外国人観光客が病気になった場合に備え、病院までの輸送や病院の受け入れ体制の充実を図ることも急務ではないだろうか。愛知県について言えば、外国人観光客の受け入れ体制を出来るだけ早く整えるためには、まず県が動かなければまったく話にならないと思う。そして愛知県の観光をもっと世界にアピールしてほしいものである。